アドミュージアム東京 リニューアルオープン
内覧会 オープニングイベントを開催

内覧会風景

開館15周年を機に大規模なリニューアルを行い、2017年12月1日（金）にリニューアルオープンしたアドミュージアム東京。オープン前日の11月30日に実施した内覧会と12月1日に開催したオープニングセレモニーの様子をお伝えします。

内覧会・オープニングセレモニー

一般公開に先立ち実施した内覧会では、関係機関・団体やメディア関係者など約400人が来館。新しく生まれ変わった施設をご覧いただきました。

また、12月1日のリニューアルオープン当日には、オープニングセレモニーを実施。セレモニーでは、アドミュージアム東京・森豊子館長より「広告を通して、人間を知る、社会を捉える。そこからさらに深く広いクリエイティブの世界の扉が開く。もしかしたらみなさまの中の創造力が呼び覚まされるかもしれない、そんな人々の『知的好奇心の遊び場』になることを私たちは願っています」とあいさつがありました。

広告業界関係者を中心に約50人の来賓をお招きし、リニューアルしたアドミュージアム東京の紹介映像の上映や、当財団理事長・森隆一をはじめ、印刷博物館館長・樺山紘一氏ら代表者5人によるテープカットを実施。華々しくオープンを飾りました。

オープニングセレモニー。左から、アドミュージアム東京館長・森豊子、電通社長・山本敏博氏、印刷博物館館長・樺山紘一氏、全日本広告連盟理事長・大平明氏、吉田秀雄記念事業財団理事長・森隆一

来館者の声

オープン初日から多くの方が訪れ、「展示が非常に見やすい」「居心地の良い空間でじっくりと楽しむことができる」との声を頂いています。また、授業の一環として、当館を利用していただいている先生からも、「インターフェースにも新しい工夫がなされており、学生たちの主体的な学びの場として活用していきたい」との声が寄せられました。今後も学びの場として継続的に活用していただけるミュージアムづくりを目指していきたいと思います。

リニューアルオープン後1カ月間の来場者数は、13,582人に達しました。この期間に来館された方々から頂いた生の声をご紹介します。

- 「展示解説の内容が深いので、何度でも訪れたい」── 30代・製造業・女性
- 「特別展では、エッジの利いた内容が多いので、学生たちがさらに刺激を受けている」──大学教員・女性
- 「広告の知識がなくても楽しめる」── 10代・大学生・女性
- 「（ガイドスタッフが）解説してくれて、とても興味深かった」── 20代・大学生・女性
- 「ライブラリーの蔵書検索の情報が充実している」──大学関係者・男性
- 「広告の歴史やクリエイティブについての研修が（社内で）あまりなかったので、それがカバーできて大変役に立った」──広告関係会社社員・男性

アドミュージアム東京のここがすごい！
～活用事例～

①画像付きデータベースと企業PR誌・広告関連専門誌の充実

テキスタイル・デザインに関する企画展示の調査目的で来館しました。「広告媒体に現れるタータンを着用したモデル」を探していましたが、通常の図書館で調査すると、3日かけても終わらないほどの膨大な時間と作業量が必要です。

アドミュージアム東京では、ライブラリーのデータベースで、最初から広告に絞って検索でき、カラー画像でしかも細かい部分についても拡大して確認できるのは画期的でした。おかげで3時間ほどでめどがつきました。

また、企業PR誌は当時の時代を反映している情報の宝庫で、それらの専門誌が国会図書館並みに充実しています。データベースでは画像が確認できるので、今まで知らなかった資料を発見するなど、非常に有用な情報を得ることができました。

②視聴覚機器の活用と館全体のデザイン性の高さ

施設面でも、参考点がありました。視聴覚機器の活用、特に「音」について、鑑賞しやすいようにうまく整理されており、設計者の苦労と心遣いを感じました。また館のデザイン性の高さは「さすが」です。できるだけ多くの方々に、アドミュージアム東京でデザインの重要性を体験してほしいと思います。

三鷹市美術ギャラリー　主任学芸員　富田智子氏